

2 研究の実際

(2) 問題解決的な学習の考え方

ア 問題解決的な学習を取り入れた授業展開

本研究では、授業展開の中に、【書く活動①】、【話し合い】、【書く活動②】を位置付けた問題解決的な学習を設定することで、ねらいとする児童生徒の育成を目指して研究を進めました。

(ア) 導入

a 主題について

授業の主題に関わる問いを投げ掛け、児童生徒の反応を受けて、考えていくべきこと(めあて)を知らせます。

(イ) 展開

a 資料について

資料を提示し、内容に含まれる道徳上の問題の状況をつかませます。

b 書く活動①について

道徳上の問題に関わる問いを投げ掛け、これまでの経験やその時の感じ方や考え方と照らしながら自己の考えとその理由を記述させます。

c 考えの可視化について

互いのワークシートを見合ったり、ネームプレートを黒板に貼ったりして友達の考えや全体の考えの傾向を確認させ、様々な考えを聞いてみたいという気持ちをもたせます。

d 話し合いについて

ペアやグループで互いの考えやその理由を伝え合わせ、問題解決に向けて意見を交流させます。全体でも意見を交流させることで話し合いのまとめを行います。

(ウ) 終末

a 書く活動②について

主題に関わる問いを投げ掛け、授業を通して学んだことやこれからの自己について記述させます。

b 主題に関わる考えの確かめについて

主題に照らしたこれまでの自己とこれからの自己への変容を確かめさせます。

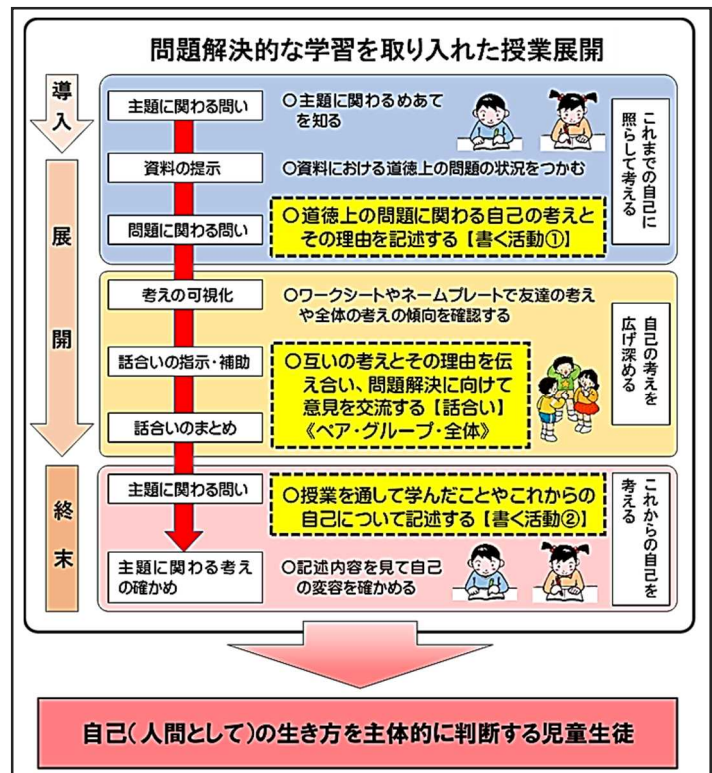


図1 授業展開の構想図

本研究では、1時間の授業の中で【書く活動】を2回設定しました。児童生徒が授業の初めの【書く活動①】の考えと【話し合い】後の【書く活動②】の考えを比較することができるからです。それにより、自己の考えが変化したり強化したりしたことや自己の判断の視点の広がりを感じることができ、自己の成長を実感することにつながります。また、ワークシートや道徳ノートを整理しておくことで、児童生徒の成長の記録として評価に生かすこともできます。

イ 問題解決的な学習を取り入れた授業の手立て

これまでの自己に照らして考える段階

【主題に関わる問い】

授業で取り上げる主題についての自己の考えを確かめさせ、授業の中で考えていくべきこと(めあて)を知らせます。

○発問

例「心の弱さを見直して、少しでも乗り越えられるようにするために大切なことは何でしょう。」

「どうしたらよいか迷ったときに、何を大事に思って判断したらよいか考えましょう。」

○留意点

児童生徒が授業で取り上げる主題について、主体的に考えるように促し、そこに含まれる道徳的諸価値の意味や意義について、授業を通して一貫して探究できるようにします。

【資料の提示】

読み聞かせる、写真やスライドを見せる、事前に読ませる等の方法で資料を提示し、内容の中で「何が問題になっているのか」「何と何で迷っているのか」「なぜそんな気持ちになるのか」などの発問により、道徳上の問題の状況をつかませます。

【問題に関わる問い(書く活動①)】

道徳上の問題に関わる問いを投げ掛け、これまでの自己の経験や体験、その時の感じ方や考え方に照らして、どのように判断したり行動したりするのか、自己の問題として捉えた解決策とその理由を考えさせます。

○発問

例「あなたは、ばつをつくるのとつくらないのとでは、どちらがよいと思いますか。」

「あなただったら、自分の大事なものを盗んだ相手を許せますか。」

「自分が“私”の立場だったら、正直に間違いを言えますか。」

「もし、あなたが、仲の良い友達からこのメールをもらったら、回しますか、回しませんか。それはなぜですか。」

○留意点

自己の問題として捉えた解決策の対立点を明らかにし、判断の理由を書かせることで、何を大切にしているのか、自己の道徳的価値観を明らかにさせます。

図2 書く活動①のワークシート例

自己の考えを広げ深める段階

【考えの可視化】

互いのワークシートを見合ったり、ネームプレートを黒板に貼ったりすることで、誰がどのような考えを持っているのか、全体的にはどのような考え方をしているのかを確認させます。自己の考えとは違う考えもあることを知り、その考えの理由を聞いてみたいという思いをもたせて話し合いにつなげるようにします。

【話し合いの指示・補助】

話し合いの前に「考えが違う相手から交流する」「相手の考えやその理由をメモする」「疑問に思ったことは質問する」などの留意点を確認させます。交流がうまくできない児童生徒には相手を見つけて考えを伝え合わせるなど必要に応じて補助をすることで、できるだけ多様な考えに触れさせます。

ペアやグループなどの少人数での話し合い

ワークシートやネームプレートを活用して、自分と違う立場や同じ立場でも理由が違う友達と考えを交流させます。自分の考えと相手の考えを比べながら聞き、直接質問したり、意見を言ったりする中で、自分の考えを強化したり新たな考えを見付けたりして、自己の考えを広げさせます。

○発問

例「どうしてそのように考えたのか、違う立場の人や同じ立場の人と話し合いましょう。」

「相手が何を大事に思って判断したのか聞いてみましょう。」

○留意点

自由に意見を出し合い、複数の解決策の理由について考えさせます。話し合いに慣れないうちは、手引きを使うことも考えられます。

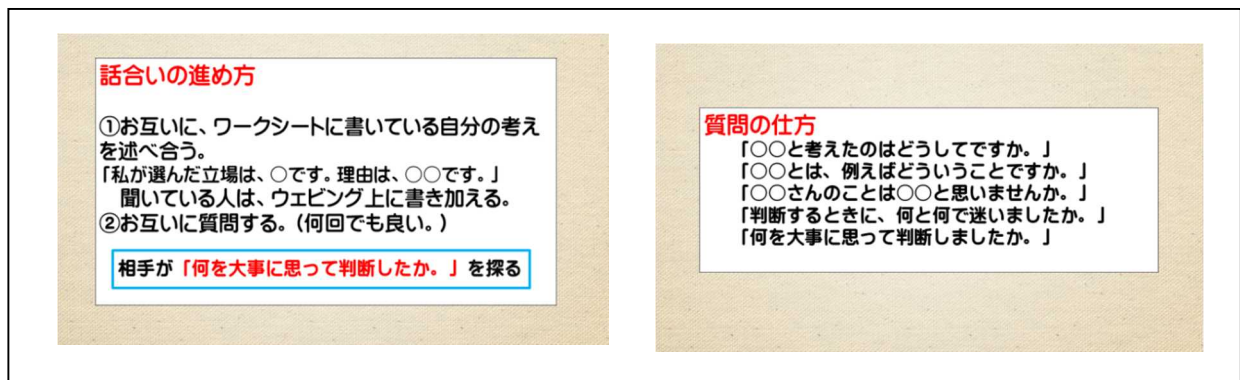


図 3 ペアの話し合いで用いた手引きの例

【話し合いのまとめ】

多様な考えや理由がある中で、より良い解決策を吟味していくような全体での話し合いにします。

全体での話し合い

少人数での話し合いを基に、全体の話し合いで更に多様な考えに触れさせます。疑問点を互いに質問し合い、具体的に解決策を練り上げます。

○発問

例「なぜそう考えたのか理由を発表し合いましょう。」

「自分と違う考えに質問してみましょう。」

「あなたが○○さんでも、その判断でいいですか。」

○留意点

出された意見を類型化したり、対立する意見は全体的にまとめたり、板書で可視化し整理しながら解決策を吟味します。他者の意見を尊重しながら、様々な角度から総合的に考察し、解決策についての自己の考えをより深めさせます。

これからの自己を考える段階

【主題に関わる問い(書く活動②)】

主題に関わる問いを再度投げ掛け、授業を通して学んだことを基に自己の考えを記述させます。また、学んだことをこれからの自己にどのように生かしたいかということについてまとめさせます。

○発問

例「○○○(主題)について、学んだことや考えたことを書きましょう。」

「これからの自分にできることを書きましょう。」

○留意点

主題に照らして、これまでの自分に不足していたこと、これからの自分にできることを考えさせることで、より良く生きていこうとする道徳的実践につなげるようにします。

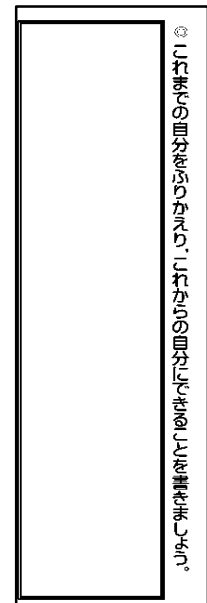


図4 書く活動②のワークシートの例

【主題に関わる考えの確かめ】

「書く活動①」や「話し合い」のメモ、「書く活動②」の記述内容を見ながら、主題に照らしたこれまでの自己とこれからの自己への変容を確かめさせます。

書く活動や話し合いに用いるワークシートは、資料に適した様式を選ぶことが考えられます。

① クロス表(図5)

クロス表を用いる利点として、①道徳的価値に関わる問題を2つの立場から考えることができる②自己やみんなの立場や判断を可視化でき、話し合う相手を見付けやすい③相手の立場や考えを書き込むことができる④複数の考えを踏まえた自己決定により、考えの強化や変容を捉えやすいの4つが考えられます。

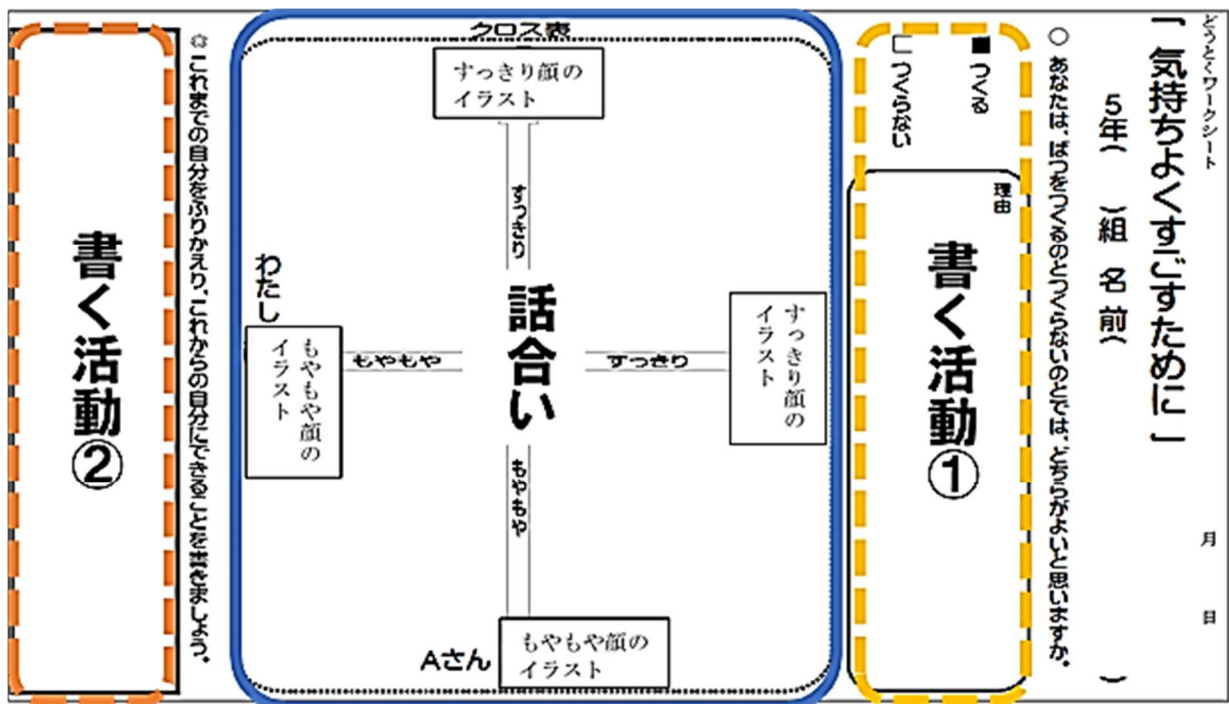


図5 ワークシートの例①

② ウェビング(図6)

ウェビングを用いる利点として、①多面的・多角的に考えを広げたりつなげたりできる②学級全体の意見をワークシートや黒板に可視化できる③友達の考えの加筆が容易である④自己の考えの変容を捉えやすい⑤複数の解決策について吟味できるの5つが考えられます。

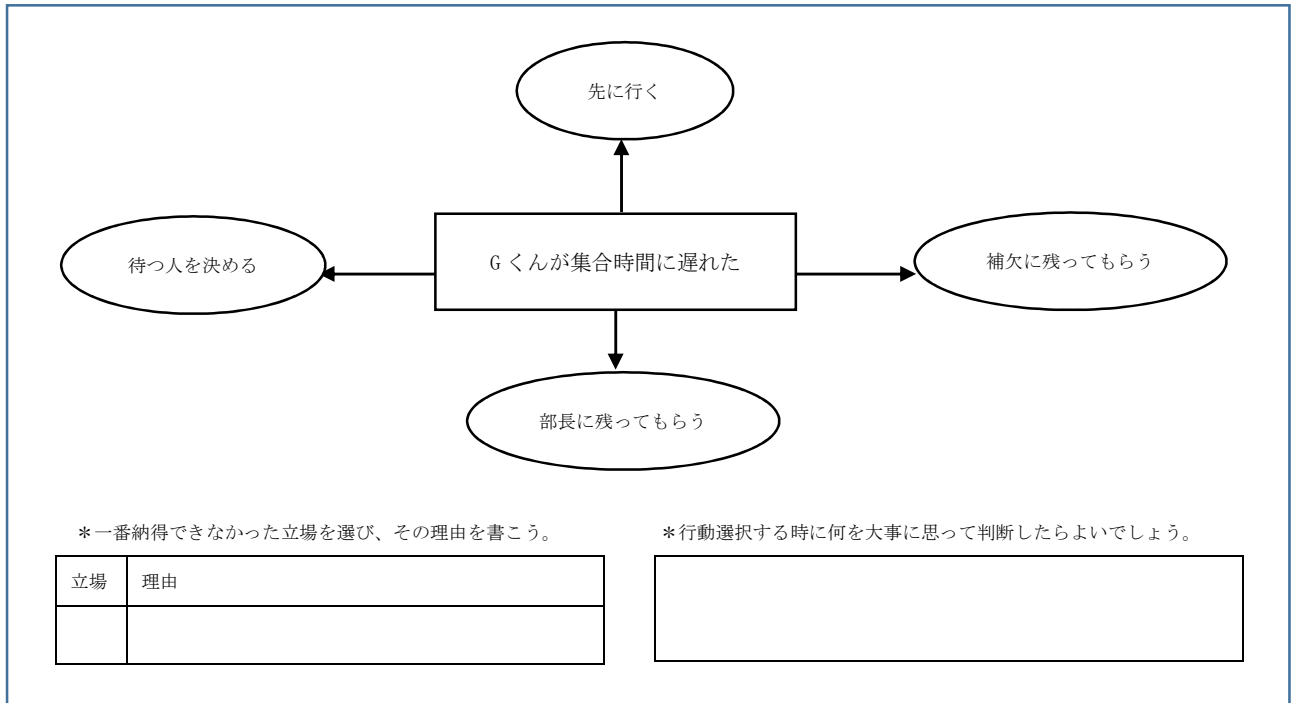


図6 ワークシートの例②

それぞれの利点を生かして、自己の考えや他者の考えをワークシートや板書に書き表すことで、多面的・多角的な思考を促し、よりよい行動を主体的に判断する手掛かりになると考えます。